

横浜市立師岡小学校で6月14日（土）防災教室が開催されました。

・・・ 消防署・消防団の訓練や東日本大震災での経験から元門脇小学校長 鈴木洋子氏の講演・・・
 師岡小学校では、地域の消防団や消防署に協力をいただいて、防災体験授業を開催しました。学年ごとの防災体験と併せて、防災講演会を行いました。

講演会は、東日本大震災の経験と防災について、実際に大きな火災と津波の被害にあった門脇（かどのわき）小学校の元校長先生の鈴木 洋子氏の講演がありました。

石巻市立門脇小学校は、地震直後の津波警報を受け、当時学校にいた275人の児童及び教職員は高台に避難して、人的被害を最小限にとどめることができました。何が大切で、何ができるのかを子どもたちや保護者・教職員に語っていただきました。

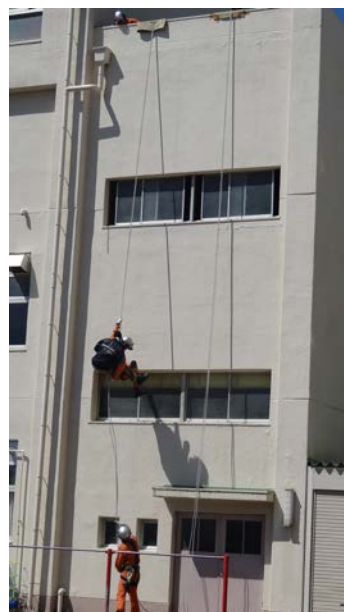


子どもたちは、消防団や消防署の方々の日ごろの訓練を見学して、防災について考える時間となりました。



火元となる場所に正確にホースで水をかける
 団員の方々

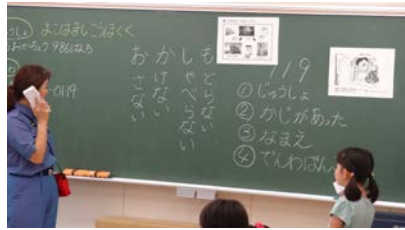
手順や確認の素早さを見学



消防署員（レンジャー隊）の降下訓練に大きな声があがりました。



消防における資材・機材の紹介や防火服の着衣体験も行われました。



教室では、低学年に火事が起きた時の対処や救急車・消防車の呼び方を学びました。



AED（自動体外式除細動器）の扱い方や紹介・さらには、人形を使っての心肺蘇生法の手順を体験しました。



子どもたちの取り組む姿勢は、真剣そのもので、経験の大切さを感じました。



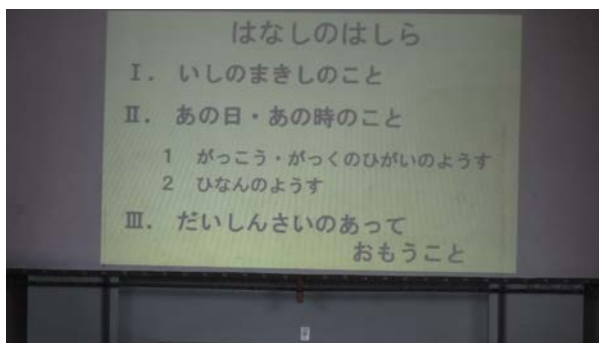
講演会では、子どもたちへ緒方克行校長先生から講演会の聴き方と鈴木洋子氏の紹介がありました。



体育館いっぱいの児童。整然と聴き入る姿勢ができている子どもたち。



鈴木 洋子氏の話が始まると、子どもたちの視線と聴き方はさらに真剣になっていきました。



最初に、『話のはしら』について説明がありました。①石巻のこと②あの日・あの時のこと③大震災を経験して思うこと・・・と分けて順序良く話がすすんでいきました。生々しさもあり、防災・減災につながるよう願いを込めて話され、子どもたちにも伝わる講演会でした。

以後、保護者への講演会もありました。引取り訓練では、児童と保護者と一緒に通学路の安全を確認しながら下校することとなりました。この授業から学校・家庭・地域でより自然災害に対する危機意識が高まることを感じました。